

第7回 阪神新地域ビジョン検討委員会 議事録概要

- 1 日 時：令和4年1月6日（木） 10:00～11:30
- 2 場 所：尼崎商工会議所 601 会議室（尼崎市昭和通 3-96）
- 3 出席者
委 員：赤澤委員長、佐久間副委員長、大平委員、定藤委員、谷口委員、水野委員
行政委員：堀越委員、大上委員、中郷委員、太田委員、平井委員

4 内 容

- (1) 今後のスケジュールについて
- (2) 阪神地域ビジョン 2050（案）について

【委員長】

今回はパブリック・コメント前に阪神地域ビジョン 2050（案）を最終確認していただく。これまでに率直な意見をいただき集大成の会になるので、引き続きご意見をよろしく願います。まず、事務局から今後のスケジュールについて説明いただく。

【事務局】

資料1により、阪神地域ビジョン 2050 の策定スケジュールについて説明する。資料1の一番下、太枠で囲んだ部分が今後の予定となっており、検討委員会については本日開催分を含め昨年度から7回を開催した。

本日の第7回では最終案について、意見交換、検討いただく。検討委員会は今回で最後となり、パブリック・コメントを1月24日から2月7日にかけて実施する予定である。パブリック・コメントでいただいた意見を踏まえ、3月の策定を予定している。

【委員長】

パブリック・コメントの期間を予定より一週間程度前倒しにして、パブリック・コメント後に報告とご意見をいただく機会を設ける予定である。（委員会は開催しない）

阪神地域ビジョン 2050（案）について、検討委員会前に意見照会を行い、本体案や個別のシナリオについても多く意見をいただいたと聞いている。意見を反映した本体案についてご意見いただくが、反映した内容について事務局から説明いただく。

【事務局】

資料2と資料3により、阪神地域ビジョン 2050（案）について説明する。また、参考資料として「阪神地域ビジョン 2050 資料編（案）」を配付している。資料編には、地域ビジョンの作成までに実施した検討委員会をはじめとする各種会議の実績や、県民からいただいたご意見、そして、昨年末に各市町あて照会して確認いただいた「データで見る阪神地域」を

掲載している。なお「データで見る阪神地域」は、前回の検討委員会で、どのシナリオと対応しているか記載したほうが分かりやすいというご意見があったので、対応するシナリオを明示した。

まず、新たなビジョンの名称「阪神地域ビジョン 2050」は、新たな全県ビジョンが「ひょうごビジョン 2050」という名称であるため、これに準じた名称としたものである。

資料2については、本日の検討委員会に先立ち、昨年末の第6回検討委員会でいただいた意見を踏まえ事務局で修正した案を、各委員及び阪神南県民センター、阪神北県民局管内の各事務所等に対して意見照会して回答をいただいた。短い期間だったが、様々な意見をいただき、ありがとうございました。字句修正なども含めて様々なご意見をいただいたが、資料2では主なご意見と対応について記載している。

番号1は、資料3、第2章の社会的潮流について、全県版と共通するような社会の大潮流を地域ビジョンに記載する必要があるのか、阪神地域でチャンスととらえられるような社会的潮流を記載しているように修正できないかといったご意見である。ご指摘をふまえ、第2章冒頭のリード文と各項の②「2050年に向けて」というタイトルを修正した。

番号2は、年号に関するご意見で、ご指摘をふまえ、全ての記載を西暦表示に統一した。

番号3は、資料3、第4章(1)にはもともと2つの図があり、過去の出来事である阪神間モダニズムなどについても図を記載していたが、そのような図は必要ないとのご意見である。ご指摘をふまえ、過去についての図を削除した。

番号4は基本理念に補足として「共創」を追加してはどうかというご意見で、番号5は、「コ・クリエーション」の説明が分かるように強調すべきというご意見である。ご指摘をふまえ、基本理念に(共創)を追記するとともに、説明部分の記述をシンプルに修正し、「コ・クリエーション」の説明部分に下線を加えた。

番号6及び番号7は、第5章(1)の下方に県民の意見を記載していたが、番号6は全て記載する必要があるのか、記載するのであれば整理するべきというご意見で、番号7はここに記載する必要はないというご意見である。ご指摘をふまえ、削除した。

番号8は、資料3のP40 行政の役割に関する記述が少ないというご意見である。ご指摘をふまえ、記述を加筆した。

今回の検討委員会に先だっご意見を伺い修正したものを資料としてお示ししている。委員の皆様からご意見をいただける機会は本日が最後となるので、よろしく願います。

【委員長】

事前の宿題ということで、委員会前に皆さんにご意見をいただいた。それが反映され、全体の構成としては大分すっきりした印象がある。随所に入っていた資料が資料編にまとまったため、40 ページ以内に収まっている。まとめすぎて分かりにくくなっている部分があるかもしれない。伝えやすい、理解しやすいという観点も含めてご意見いただきたい。資料2の8項目以外で、反映されていないという意見でも構わない。

【委員】

事前の意見照会ではいろいろとコメントをさせていただいた。適切な修正をしていただき、見やすい状況である。資料2の番号6、7の意見で、第5章（1）では「こんなことを意識してみましょう」と、これから参画される県民の方々への呼びかけ部分という位置づけが前回の検討委員会でなされていた。その後、事前照会の時には県民の意見がたくさん記載されていたが、全て削除されている。県民の意見は資料編に記載されているのか。どのように生かされているのか。それに伴い、P39からメッセージ性がなくなってしまった。経緯を説明いただきたい。県民の意見は情報のメリハリがない状態だったが、共感できる意見、これを意識してみたいと思えるキャッチーな意見もあった。

【委員長】

資料編の第2章に県民の意見がまとめてあるようだが、まとめ方の方針はどうか。

【事務局】

意見交換会の結果については、全て資料編の第2章にまとめている。第5章に記載していたものは資料編から抽出したもので、一部シナリオで記載した意見もあるが、今回は資料編に記載する方針で第5章では削除した。

シナリオには4つの柱があるので、4つの柱ごとに意見を分けて記載しており、対応した意見を見ることができるよう工夫した。

【委員】

先日送っていただいた資料には一部文章の誤りがあったが修正され、よくまとまっている。一方で、シナリオが充実した分、文章量が多くなり、一般の方には読みづらいのではないかと感じた。特にシナリオ1、2、3は文章が多いと感じた。私のイメージではシナリオ5、9、13の図版と文字のバランスが一般の方にも親しみやすいのではないかと思う。写真やイラスト、グラフなどの視覚的資料が多めにあると良い。

シナリオ9に図が2つあるが、A4サイズの冊子であれば文字が小さくて、高齢の方には読みにくいのではないか。他のシナリオの図版もあわせて、文字の大きさを再確認していただきたい。

【委員長】

シナリオの図版の使用について同じ印象があった。シナリオに図や写真が入っていたらいいが、一方で書くべき文章をなくす訳にもいかず、一文一文見ると2～3行でまとまっていて、一行にするとよく分からなくなる。修正ができるか分からないが、写真があれば、レイアウト上で入れる努力をお願いします。文章が多いことに関して、大幅に圧縮はできないが、シナリオ上で新聞記事みたいに読み飛ばしができるような工夫ができる感じがする。例えばシナリオ1で「課題」タイトルと下の文字の大きさがあまり変わらない。ここだけ読めばおおよそ内容が分かるようメリハリをつけると読みやすくなる。図版の文字は可能な限り大き

く、パブリック・コメントまでに最大限の努力をお願いします。

「地域コミュニティの声」や「みんなの声」のボリュームが全体的に多いので、それを圧縮しながらレイアウトを工夫できればいい。シナリオ4と5を比べるとシナリオ4の文字が多く感じるのは「みんなの声」が多く入っているからで、シナリオ5は「みんなの声」が1つで写真が並んでいる。「みんなの声」が多いシナリオを圧縮して資料編に記載する。中身をシンプルにまとめた構成にさせていただいたので、そのポリシーのまま検討いただきたい。

【委員】

文字の強弱でずいぶん印象が変わり読みやすくなるのではないかと。シナリオ1表題下の現状と「課題」「将来への取組」などの4つの項目、「みんなの声」が同じフォントなので、同じ文字ばかりが並んでいるイメージがある。内容は、非常にシンプルにまとまっている。

【委員長】

資料編を別にまとめていることを前提にしながら、できるだけ図版や写真を多用し、図版の文字を大きく改変をお願いします。P17の図は循環の図に絞って記載し、(共創)を追加することによいか。(異論なし)

【委員】

非常に小さなことだが、表紙「コ・クリエーション(共創)が育む阪神地域」の「」は省いてもいいのではないかと。P40の図に5つの主体が描かれていて、「行政」の位置づけは、プラットフォーム機能を提供する側で支援をする、支えることなので、主体の一つでありながら一方で全体を支えるような表現が入ったらいいと思ったが、どう表現したらいいかわからず提案できなかった。

【委員長】

「行政」が土台になる案もあった。例えば、5つの主体の中で、「教育機関」は専門的に支える側という気がする。システム、体制、制度で支えるのが「行政」で「教育機関」も下で、「企業」「団体・NPO」「住民」が上にある。できれば、色のグラデーションで、下の2つを土台として主に支える側、上の3つが活躍する側で支え合う関係もあるだろう。順番を入れ替えて関係性の違いを追記するだけで表現できる気がする。大きな考え方はこれでいい。

【委員】

P40の図「住民」に「新たに関わる人を受け入れる」と記載があり、P39では、受け入れを支援する意識を持つことで新たな発想が加わり、活動の輪を広げると記載がある。そのような発想もあるが、元々地域にいる人がいて、そこに新しく入ってくる人がいるという構造しか見えていない。逆に言うと、新しい人が既存の人と関係なく活躍してくれるようなことも期待する表現でもいい。P40の図は「受け入れる」ではなく、新しく関わりたい人がどんどん活躍するようなメッセージがあればいいと思う。コ・クリエーションなので新しい人と

新しい人でも新しいことが生まれるはずなので、新しいこと、古いこと関係なくフラットに表現できればいい。

【委員長】

ボランティア活動や参画と協働が始まった 20 年前のビジョン策定の時には既存の地縁コミュニティと新しいテーマ型コミュニティ、新しい中間支援組織をどのように接続するかに注力してきたが、今はフラットになってきて、それを同時多発的にいろんな関係を作っていくことだという気がする。「共創」は、より自由度を上げた多様性で発言できる気がするので、P40 の赤字部分を強調する必要はなく、今の構造に新しい人が入ってくるというようなニュアンスは消して、フラットな形で検討できたらいい。全体の本質がまとまっている部分である。

【委員】

P17 の 1～4 と P19 の I～IV と文言や数字の表現が違うので、P19 に合わせるなど、P17 の図が 4 つの方向性と分かる方がいい。あるいは P17 の図下に「4 つの方向性を元にコ・クリエーションを進めていきましょう」というようなメッセージがあって、次のページにいけば 4 つの方向性が分かるよう対応に工夫がいる。

【委員長】

文言を合わせた方がいいがタイトルが長く、P17 を図化するとき工夫されたが、対応がとれないということはある。図自体が大きく作成されているので、タイトルを全部入れてもいいような気もする。レイアウト上は P17、18 を一体的に説明して、最後に P17 の図があってもいい。ページが違うから関連づけて理解しにくいので、P19 の表と P17 の図が連続するよう順番を変えてもいい。「P17 の図のように関連してコ・クリエーションが実現していきます。それぞれについては P19 の表にあるような 4 つの項目と 18 のシナリオで説明されている。詳細は以下のページをご覧ください。」と、図は連続するが分かりやすい気がする。レイアウトも含めて検討いただきたい。

【委員】

改めて P40 の図を見るとパズルの図は抽象的な表現だと思う。子どもや家族など分かりやすいものに変えた方がいいのではないかな。先ほど、主体の位置関係の話があったが、私は「団体・NPO」と「企業」を入れ替えてはどうかと考える。すると、「団体・NPO」と「地域住民」の間に「働き方」というテーマが見えてきて、「教育機関」と「地域住民」の間には「学び方」というテーマが見えてくる。そして、「行政」と「団体・NPO」の間には公共を支えるつなぎ手という共通の役割があることを伝えることができるようになる。

阪神地域住民の赤字 3 行には、地域住民のコ・クリエーションな活動への参加のステップアップが記載されている。第 1 ステップとして「地域に興味、関心を持つ」、第 2 ステップとして「自分にあった地域活動へ参加」、第 3 ステップとして「新たに関わる人を受け入れ

る」、さらに第4ステップとして「重層的につながる」(P39の文言)を入れると、コ・クリエーションという聞き慣れない活動への取り組み方がメッセージとして明解に伝わっていくのではないかと。

【委員長】

全体的な表現や赤字の部分を検討いただきたい。阪神地域住民の赤字部分は全体を示しているようにもとれる。今回、公の大切さや公も他の主体と同じとして捉えることも大事なことで、一つの主体として表現しても分かりやすいと思う。パズルの図は、全体がつながっているという重層的に多層的に自由に示すアイコンに見えるので、全体を表すところにするか、文言で表現するほうがいい。

【委員】

コ・クリエーションを表現しようとするこのパズルの図になったと思うが、それが抽象的で伝わりにくいとすれば、例えば阪神地域住民の人々を大きい人、小さい人、男性、女性、高齢者などいろんな人のシルエットが集まっているような図にしてはどうか。

【委員長】

つながり方を示すことは難しい。「教育機関」が支える側と意見したが、「団体・NPO」もそうではないかという意見もいただいた。「教育機関」も「団体・NPO」も活動主体でありながら支援側でもある。「企業」もそうかもしれない。おおよその上下は分けておいて、関係性を細かく書くならフラットに書き、多様性をもっているいろんなつながりを表現する方が直感的に理解しやすい印象である。「行政」も全て住民にお願いする訳ではなく、行政組織として執行、牽引していくはずで、そもそもビジョンは「住民」がやることをまとめ、別にある行政計画と接続しつつ、どのように進めていくかという目的があったと記憶している。「行政」も完全な支援側ではない。位置関係を上下レイアウトくらいで表現するにとどめた方がいい気がする。

資料2について、ひととおりのご意見をいただいた。番号1は再掲した方がいい。全県版と地域版の両方を読む方ばかりではないので再掲感はあるが地域版でも時代潮流を記載することといい。番号4は補足なので了解いただいていると思う。番号5は強調していい。

【委員】

シナリオ7「許可取得後掲載」には何が入るか。

【事務局】

図の左の説明のとおり、「甲子園住宅経営地鳥瞰図」を掲載予定である。甲子園エリアの娯楽・スポーツ施設、学校、病院などが充実したガーデンシティが描かれたものである。

【委員】

分かりやすく見やすくなった。シンプルに絵（挿絵で理解を促す）を描いてもいい。P17の図ではコ・クリエーションによって1、2から3になる。4から1、2に循環するところにコ・クリエーションの記載があってもいい。丁寧な説明があることで、かえって分かりにくくなっているような気がする。P40の図は各主体がどう関わるのかではなく、コ・クリエーションでつながっていると表現したらいい。各主体の役割があってもコ・クリエーションになるのではなく、真ん中にコ・クリエーションで共創しよう！でいいのではないか。

【委員長】

P40の赤字は説明書きとして下に書き、中は象徴的なコ・クリエーションの言葉にとどめて5つの主体をつなげ、いろんなつながり方があると印象的に理解できるようにしていくというご意見である。言葉の修正も含めてレイアウトの検討をお願いします。P40のいろんな人のシルエットの図を使えるならば、P17の図「4にぎわいが生まれる」はいろんな人がつながった状態で、「1自分らしさの実現」ではそれぞれの主体が個々で活躍し、「3つながりとコミュニティ」で手を取りあった後、いろんな人が並んでいる状態に変わっている。緑の人（シルエットの図）がアクションして変化してつながったということが表現できればコ・クリエーションが比較的理解しやすい気がする。県民、一般の方向けには直感的が大事であるので、改善をお願いします。

【委員】

P17の図は青色の矢印とゴールドの矢印の2種類ある。「4にぎわいが生まれる」ことによって、「2自然・歴史・文化」を磨く人がコ・クリエーションすることも生まれるという意味で言うと、矢印の色は全て特別なゴールドでコ・クリエーションによって循環していると表現した方が分かりやすいと思う。

【委員】

細かすぎるところで恐縮だが、P21「20位以内にランキングされた阪神間の駅名」の「阪神間」とあるが、他の表示は「阪神地域」となっている。これはSUUMOの調べで「阪神間」と表記している。P40の図の「企業」は、一般的な理解で誤解が生じることはなく問題はないと思うが、「企業」は経済学的に「団体」も入る。表記が気になるが、直すべきかというとそのままでいい気がする。

【委員長】

「企業」は公営企業もあるし、「事業者」とすると細かくなってしまふ。一般的に行政用語として、「企業」として使うのであれば理解しやすいかもしれない。

【委員】

営利目的であれば「会社」、市民の活動を含めた非営利での活動であれば「団体・NPO」と

理解している。おそらく「企業」でいいと思う。

【委員長】

「企業」そのままとする。行政委員の方にもご意見をいただいているところだが、行政の視点からご意見はないか。

【委員】

文章や使用している図や写真について見やすくなり、また、行政担当者として勉強になった。最終的にこれが県民の皆さんや事業者の方に周知していく成果物になることをイメージして、見やすいかどうかという視点で4点の意見を申し上げる。

シナリオが肝の部分になるので、見開きでA3にすると文字も大きくなり、図の文字も見やすくなるのではないかと。18 ページ増になって経費等の問題もあるだろうが、冊子の向きを変えて読むのは難しいと感じる。写真等もきれいにレイアウトされているので、シナリオを見開きで読むことができたらいい。

資料編にはたくさんの県民の意見が入っていて充実している。資料編から各シナリオへの誘導はあるが、シナリオから資料編へも誘導（主なもの）できるような書き込みがあれば、本体編と資料編をセットで見てくださいやすい。

P17の図とP19の表、各シナリオの表題の番号表記を全て統一したほうが、初めて見ていただく県民の方にはたどりやすい。また、P19に「IVにぎわいのあるまち」の文章が記載されているが、それぞれ文章の下にP19の表を記載するか、「IVにぎわいのあるまち」の文章までP18に入れ込み、P19は次のページ以降（シナリオ）の目次になるよう1ページで記載すると読みやすいと思う。

【委員長】

番号表記の統一と本体から資料編への誘導もできたらお願いしたい。本体から資料編への誘導を細かくしすぎると見にくいので主なものでお願いします。P19の表を分けて文章につなげる案も分かりやすい。P17の図とP19の表を続けて書くと図と表の関連性が分かりにくくなるかもしれない。P19の表を分けて文章につなげることで解消できるのかもしれない。見やすいものにしていただきたい。シナリオを見開きにしたら、今までに出たアイデアが一気に解決される案だが、シナリオのボリュームが大きくなる。本体編で大まかな説明をして、各シナリオについてはシナリオ編とすると、シナリオ編が人気となりビジョンはこれだろうとなる気もするし、分冊にすると分かりにくい気もする。ビジョンの構成や他地域の状況も含めて相談できたらいい。

【委員】

P17の図は基本理念が1から4とつながって循環していくイメージで、P18の2行目「4つのグループに分けました」と記載があり4つは並列であると理解しているが、そう考えるとP17の図は並列ではなく循環している。P17の図1～4と、P19の表I～IVは同じか。

【委員長】

前半の議論は P17 の図の構造が正しい。P19 の表は並列ではない。P19 の表を順番に示した上で、P17 の図のとおり循環させてコ・クリエーションを生み出すということが第 4 章の（１）（２）をとおして伝えたいことである。P17 の図を後ろに持ってきた方がいいか、P19 の表を文章に溶け込ませた方がいいという意見がでている。

【委員】

P13「⑥地域に根付く芸術文化」とあるが、芸術と文化について、文化は文化、芸術は文化的潮流に対して挑戦するという意味があるそうだ。文章の中には「文化・芸術」の「・」があり、表現はどう考えたらいいか。

【委員】

芸術と文化は本来異なる概念であるが、一般的に「芸術文化」もしくは「文化芸術」とひとくくりの言葉として通用しているため、ここで述べられている文章に関しては問題ない。国の文書などでは、昔は「芸術文化」と言っていたが、文化芸術振興基本法が成立してからは「文化芸術」が定着しつつある。

【委員】

シナリオのタイトルについて、シナリオ 1～4 はオレンジ、シナリオ 5～8 は緑と P19 の表の 4 つの色と対応させてはどうか。A3 の見開きになって右側に色の帯があれば見やすい。全県版でも大きな方針に対してシナリオを色分けしていたので視覚的には分かりやすい。

【委員長】

重なっている色があるので、中身を表すところは濃い色を採用し、「課題」「将来への取組」など流れを示す背景は薄くして、4 つの色分けとシナリオのベースの色の整理はできる。是非ともお願いします。事務局からも気になっていることを発言いただきたい。全体としてご意見はないか。

これで一とおり資料 2 の対応やその他についてもご意見をいただいた。P40 の図の考え方について現在のコミュニティの構成に新しく入るというのではなく、いろんなつながり方がありえるということについて、おおよそは表現をどうしたら分かりやすくなるかということだった。パブリック・コメントまでにできるだけ反映いただき、事務局で検討いただきたい。よろしくお願いします。パブリック・コメント前の更新分については委員長に一任いただくことでいいか。（異論なし）皆さんからいただいた意見を適切に反映できるよう事務局と相談していきたい。更新案をもってパブリック・コメントにのぞみたい。

私としてはこのような計画を作るときは PDCA（Plan 計画・Do 実行・Check 評価・Action 改善）のような推進体制を考える。この計画自体をスタート軸として戦略的にしたい。先がより見えなくなっている時代なので、10 年後や 2050 年までシナリオを決めてそのとお

りしたらいいというのではなく、シナリオもここまでいったらそれを土台にまた新しい発展があるように考えてきた。今のところはこういう発展を想定しているが、ここから先、ある時点で違う発展の仕方を違う人が考えるかもしれないということをしてできるだけ入れたいと計画を書いてきた。そういった観点であまり PDCA 的な進行管理のニュアンスを出さない方がいいと思って強く勧めてこなかったし、委員の皆さんからも強く意見が出てこなかったのが今回はない状態である。どうやって進めるかパブリック・コメントで意見がでるかもしれない。過去のビジョン委員の先輩方から意見がいただけるかもしれない。パブリック・コメント後に皆さんに意見をいただき追加するかもしれないので、よろしく願います。

検討委員会が始まったときは率直な意見がいただけるか心配だったが、率直に遠慮なくいろんなご意見をいただいた。何度も宿題を出したが丁寧に答えていただき、7回の検討委員会では収まりきれないような意見をいただき、事務局の尽力により適切に反映でき、何か欠けているとか議論できていない状態はなかったと感じている。こういった計画は、作ってからが本番であるが、作るときには作るときの最大限の努力を尽くした感はある。いったんやり尽くした我々としても関係をとぎらせず、P40の図にあるような方もこの委員会の委員になっているので、これからもアドバイスやいろんな支援側として引き続きご協力をいただきながら、推進に際しても委員会として協力していきたい。1年半の長きにわたってご協力いただきありがとうございました。